

学校通信

No. 10 令和3年7月16日（金）鈴鹿市立白子小学校

6年生 野外学習(7/9)

「三重県まん延防止等重点措置」を受け、延期しておりました野外学習ですが、無事行ってきました。

当日の天候が大変心配でしたが、午前中は晴れ（蒸し暑かったですが）、事前に担任から与えられた5つのミッションをクリアしながら班別で関宿の散策を楽しみました。その一つに「本物のかまどを見学（下写真）して、お弁当をゲットしましょう！」というミッションがありました。



女将さんから、「ご飯を炊くには、薪を燃やすところから行うので時間がかかるんだよ。今のように『チン』一つでパンを焼くような調子にはいかないね。」と、昔の暮らしの様子を聞かせてもらいました。そして、昼食用にこのかまどで炊いた「山菜おこわ」のお弁当を受け取りました。古い町並みでのひと時、江戸時代にタイムスリップしたようでした。



関宿を出発して青少年センターに向かっている途中で雨が降ってきましたが、その後は室内での焼杉の創作活動ですので、予定通り始めることができました。バーナーで杉板を焼き、表面を古雑巾で擦り、絵を描いていきます。指導員の方の説明をよく聞き、板の裏表の違いや掛けひもをつける金具の位置など、細かい点に注意しながら、安全に作業を進めることができました。最後に、自分がデザインした下絵を見ながら、杉板に絵を描き、自分だけの焼杉プレートを完成して満足そうでした。

◆1 学期、先生たちも勉強しました

6月18日（金）は5年B組担任（若林教諭）、29日（火）は4年A組担任（西教諭）による算数の授業を全教員で見合い、教育委員会より指導主事を招聘して、授業づくりについて研修を行いました。

5年生は、「小数÷小数のわり算であまりが出た時、あまりの小数点はわられる数のもとの小数点に揃えて打つのはどうしてなのか」、4年生は「 180° より大きい角度を分度器を使ってどのようにはかるのか」考えを深める授業です。機械的な計算方法や与えられた知識の理解だけでなく、計算の意味や仕方を筋道を立てて考察し、その考えを的確に表す力が求められます。

授業後、子どもたちの発言や様子を振り返り、この時間に身に付けさせたい力がついたのか、グループに分かれて討議し、指導主事から助言をいただきました。子ども同士が各々の考えを伝え合いながら理解を深めていくことや、具体物や図の効果的な活用方法などについて意見交流を行い、改めて自身の指導方法を振り返る機会となりました。

